



出典：佐賀市HP
<http://www.city.saga.lg.jp>

さがさんぽ

はじめに

「佐賀市なんて何にも無いじゃん！」とよく言われる。しかし、私の地元、佐賀市は住み心地がとても良いまちである。それなら、佐賀に住んでいる人がもっと、「いいまちだなあ」と感じるまちはどんなものだろうか。今回は、佐賀市を対象に、「さんぽしたい」と思える、鮮やかで、おちゃめで、ほっとする風景のあるまちを提案したい。

タイトル:さがさんぽ、対象地:佐賀県、分類:まち全体の計画・構想

1. 佐賀を彩る熱気球

背景

「じゃあ、佐賀には何があるの？」という問いへの私の答えは決まってアジア最大の「バルーンフェスタ」である。サテライト会場を設け、佐賀市全体で空一面に広がるバルーンを応援している。しかし、サテライト会場では、バルや骨董市といった、バルーンとはまるで関係の無いイベントが行われており、一体感が感じられない。

提案

サテライト会場である、屋根が撤去された商店街などの小路に、ポルトガルの「傘の道」のようにカラフルなバルーンで空を埋め尽くす。路地では、なかなか本物のバルーンは見る事が出来ないが、こんな景観があれば、佐賀のバルーンのイメージが強調され、景観に繋がりが生まれ、お祭りムードも一層盛り上がるのではないだろうか。夜は、LEDやキャンドルでライトアップされたら、きっととっても美しい。



▲ポルトガルの「傘の道」

出典：flickr

<https://www.flickr.com/photos/pmntn/>



▲呉服元町商店街の様子

出典：糸島空き家プロジェクト日記

http://itoya2011.blogspot.jp/2011_06_01_archive.html

2.えびすさんのさんぽ道



背景

佐賀のまちのなかで、異様な存在感を放っている約800体のえびす像。
私が小さい頃、このえびすさんが歩き出したら…とよく空想した。

提案

道路にえびすさんの足跡や、観光スポット・隠れスポットなどの案内表示を描く。
まちなかをえびすさんと一緒に散歩することができたら、夢があってちょっと楽しい。



▲ペンギンの足跡を辿る子ども

出典：秋田市大森山動物園

<http://www.city.akita.akita.jp/city/in/zo/newsevent/news/2010/221118.htm>



▲800体も点在するえびす像

出典：佐賀市観光協会

<http://www.saga-ebisu.com/history/>



3. みんなで菜園

背景

これは、佐賀独自の提案ではなく、まったく新しく創る風景の提案になってしまうが、私は以前から、年々高齢化する農業を、より身近にする方法について考えていた。私の祖父母は佐賀市内で農家をしているが、歳を取ってあまり動けなくなっても、いつまでも農業をするにはどうしたらよいのだろう。そして、田畑や庭を持たない市民が、手軽に農業をするには、どうしたらいいのだろう。

提案

佐賀市富士町にもある植物工場の人工光型・水耕栽培システムを、駅や商店街など、必ず毎日市民が利用する施設の壁面に整備し、各人が壁のエリアを購入し、菜園を営む。野菜は、佐賀大学ブランドのバラフをはじめとする野菜をつくり、駅や商店街で観光客などに売ることも出来るようにする。手軽に農業・緑化ができ、道を通るたびに季節や生命を感じられ、「立派に育ちましたね」、なんてコミュニケーションも図ることが出来るかもしれない。



▲富士町の植物工場

出典：佐賀県HP

<http://www.pref.saga.lg.jp/web/dayori10040203.html>



▲バラフ

出典：佐賀大学ブランド野菜「バラフ」
公式サイト

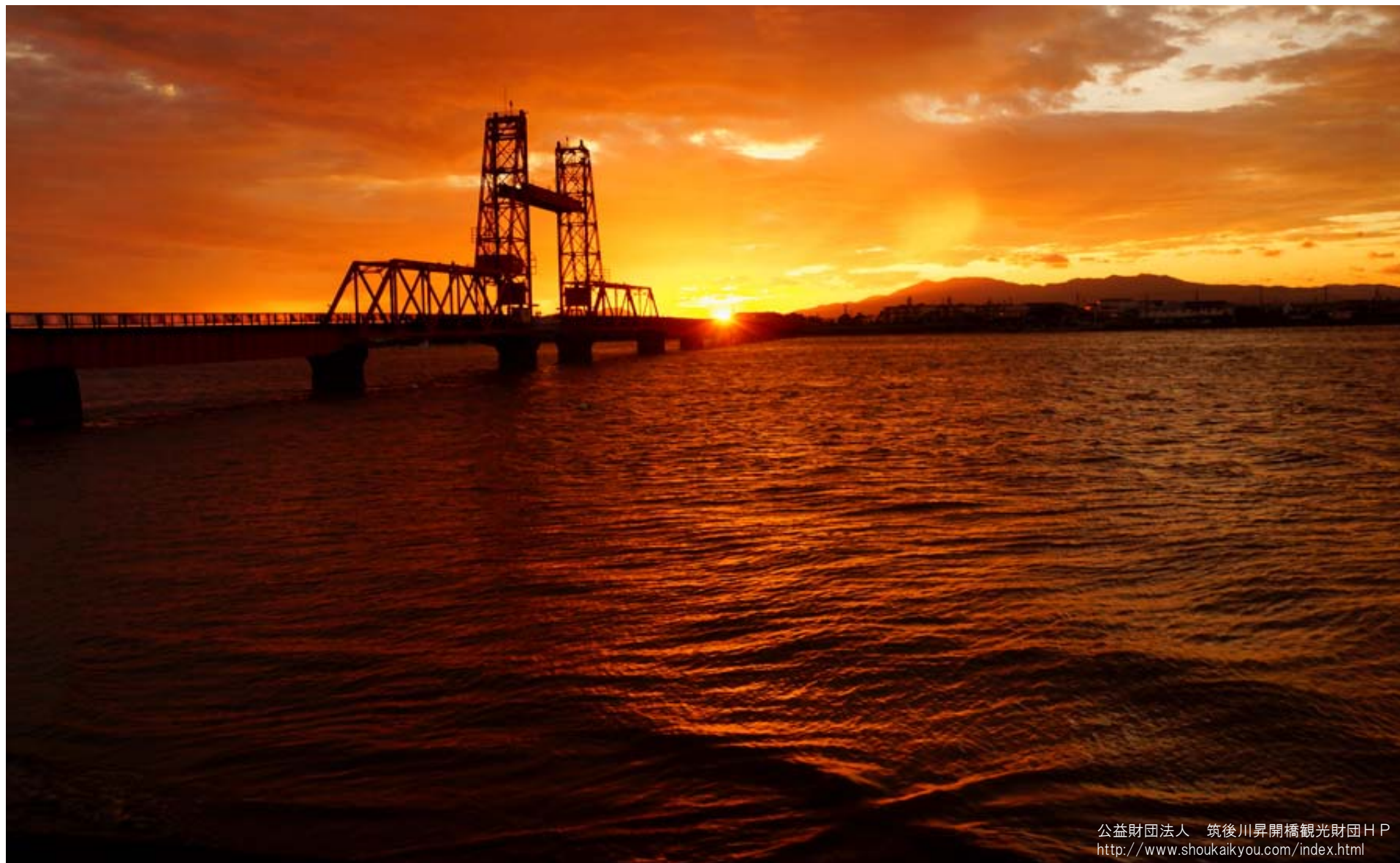
http://www.barafu.jp/about_barafu.html



▲商業施設（カフェ・レストランなど）の屋外や窓側に多段式・水耕栽培の壁を設置（イメージ）

出典：アーバンファームファクトリー

<http://urbanfarm.co.jp/urbanfarm>



公益財団法人 筑後川昇開橋観光財団HP
<http://www.shoukaikyou.com/index.html>

おわりに

佐賀市は、まちに派手さは無いが、人はやさしく、自然にあふれる良いまちである。ただ、商店街の屋根がはずれたことによってこのまちに住み続けて大丈夫なのだろうかと不安に思った。小さなことからでも、日常の風景を、少しでも誇りに思ったり、自慢できるような愛おしい風景に変えていけたら、と思う。

タイトル:さがさんぽ、対象地:佐賀県、分類:まち全体の計画・構想